2017 ROK SHIFTER CUP SUZUKA SERIES Round7/Round8

2017 ROK SHIFTER CUP 鈴鹿シリーズ 第７戦／第８戦

シリーズ終盤の大一番、第７戦は小林選手が５勝目 第８戦は堀尾選手が待望の初優勝を飾る



■2017 年 7 月 2 日　■鈴鹿サーキット国際南コース（三重県）　■晴れ（ドライ）　■参加台数：第 7 戦 18 台／第 8 戦 18 台

2016 年 11 月に開幕した 2017 ROK SHIFTER CUP 鈴鹿シリーズは今回を含めて 2 大会・4 戦を残すのみとなり、チャンピオン争いは佳境を迎えた。ROK インターナショナルファイナル（世界大会）招待の行方を大きく左右するこの大会の参加は 18 台。国際レースで腕を磨いてきた選手、元＆現役の全日本ドライバー、海外からの参戦……と、その顔ぶれは今回も豪華にして多彩だ。

空は快晴。日差しは強く、夏本番の湿り気を帯びた熱気がサーキットを包んでいるが、時折吹く風は爽やかさだ。

第 7 戦のスターティンググリッドを決める公式予選（タイムトライアル）では、開幕 4 連勝でポイントリーダーに立つ小林一景選手（K.SPEED WIN）が 48 秒 445 のトップタイムをマーク。1000 分の 9 秒差の 2 番手は、5 度の 2 位獲得でポイントランキング 2 番手に着ける堀尾風允選手（TAKAGI PLANNING）。韓国から参戦のキム・カンドゥー選手（CJ Racing Junior）が 3 番手に。前大会の 2 連勝でポイントランキング 3 番手に着ける中村賢明選手（TRENTAQUATTRO）は 5 番手だ。







各車はピットレーンのダミーグリッドからコースインし、１周してスタートライン手前のスターティンググリッドに停止。ここから１周のフォーメーションラップを行なって再びコース上のグリッドに停止し、スタンディングスタートで１０周のレースが始まった。

ポールの小林選手は好スタートを決め、トップのまま危なげなく１コーナーを通過。堀尾選手もしっかりと２番手をキープした。一方、３番手にはスタートでふたつ順位を上げた中村選手が浮上。キム選手は１ポジションダウンの４番手となった。最初の３周は小林選手が 0.5 秒弱のリードを保っていたが、ここから２～４番手が小林選手にじわじわと詰め寄り、中盤戦からはトップ４台が僅差で１列に連なって先頭集団を形成する展開となった。この緊迫感に満ちた接近戦は、順位変動のないままラップを消化していく。最終ラップにはヘアピン手前で堀尾選手が小林選手の真後ろに迫るが、ここもオーバーテイクのチャンスを見出すには至らなかった。

結局、小林選手はポール・トゥ・ウィンで今シリーズ５勝目を達成。堀尾選手は６度目の２位に入賞。中村選手は第８戦への手応えをつかんでの３位に。デビュー２大会目のキム選手は自己最上位の４位に入賞した。この先頭集団から２秒弱遅れて佐藤奨二選手（INTREPID JAPAN CORSE）が５位、さらに１秒ほど遅れて冨田自然選手（Kosmic Racing Team Japan）が６位でフィニッシュした。第８戦は、この結果がスターティンググリッドとなる。



WINNER：小林一景選手

「後ろを引き離すことができず、納得できるレースではなかったけれど、比較的楽な展開で勝つことができました。2016 年に行なわれた開幕４戦では優勝できたのですが、2017 年になってから速いドライバーが増えてきて、レース全体のレベルが上がったことを感じています。前回の大会で４位と３位に終わったことで、改めて気合が入りました」



2nd PLACE：堀尾風允選手

「手応えを感じられるレースでしたし、クルマもいい仕上がりでした。ポイントのことは気にせず、一戦一戦勝つことだけを考えて走っています。小林選手の前に出るために必要なのは、あと少しの度胸でしょうね」



3rd PLACE：中村賢明選手

「僕のシャシーは一発のタイムが出にくい分タイヤの持ちがいいので、第８戦に向けてひとつでも順位を上げられるよう頑張りました。タイムトライアルは５番手だろうが６番手だろうがまったく気になりませんでした」





第８戦も第７戦と同じスタンディングスタート方式で、16 周のレースが始まった。フロントロウの２台、小林選手と堀尾選手は1･2番手をキープしたまま発進。一方､3番手には４番グリッドのキム選手が浮上し､中村選手はひとつ順位を下げて４番手になった。

２周目、ヘアピンで堀尾選手が小林選手をかわしてトップに浮上。その後方では佐藤選手が中村選手をパスして４番手に。さらに東拓志選手（INTREPID JAPAN CORSE）が 17 番グリッドから６番手へと大きく順位を上げてきた。

レース中盤は堀尾選手、小林選手、キム選手、佐藤選手のトップ４台が等間隔で一列に連なる展開。小林選手は何度か堀尾選手に接近するのだが、勝負を仕掛ける距離までは近づけない。そしてレースが終盤戦に入ると、堀尾選手がじわじわとリードを広げ、やがて背後のギャップを約１秒に拡大した。そのまま走り切った堀尾選手は、ピットレーンで見守るチームメイトに右手を突き上げて初優勝のチェッカーをくぐった。小林選手は２連勝こそ逃したが２位に入賞。キム選手は小林選手と僅差の３位で自己最上位を更新するとともに初表彰台を獲得。佐藤選手は自己最上位タイの４位でフィニッシュ。東選手は序盤で中村選手をかわして５番手に上がったが、残り２周で中村選手が東選手を抜き返して５位を手に入れた。

ポイントランキングは、小林選手が 174 点でトップの座をキープ。堀尾選手が 161 点で２位、中村選手が 129 点で３位。2017 鈴鹿シリーズを締めくくる次回の第９戦／第 10 戦には、この３名がチャンピオン獲得の権利を持って臨むこととなった。



WINNER：堀尾風允選手

「鈴鹿では去年から負け続けていたので、ゴールした時は『やってやったぜ！』って気分でした。第７戦では前半に余裕があったので、今回は前半に仕掛けようと思っていました。トップに立ってからは攻めるところと攻めないところをはっきりさせて、できるだけ同じペースで冷静に走ることを考えていました。次ももちろん全力で勝ちにいきます」



2nd PLACE：小林一景選手

「レース前半は堀尾君に着いていけたけれど、後半は向こうの方がペースがよかったから、前半に勝負を仕掛けていたら展開が変わったかもしれません。次は今回見つかった課題を改善して、２レースとも勝ちたいです」



3rd PLACE：キム・カンドゥー選手

「前回の大会では初参加でスタートの仕方もよく分からなかったけれど、今回はちゃんとスタートできて、いいレースをするができました。表彰台を目指して全力で走りました。次はもっといいレースをしたいと思います」